

フランクルの人格に関する 10 論旨 —実践の中での「ロゴ教育学」の適用—¹

ヨハナ・シェヒナー

ヘイデマリー・チェルナー

勝田茅生（訳）

はじめに

フランクル・センターでは、このテーマを長年にわたって扱ってきました。その成果は 1 冊の本にまとめられています。今回の日本での特別レクチャーではそれを多少短縮してお話ししたいと思います。

私たちがセンターでこのテーマについてお話しする際には、まずフランクルの人間像から話します。フランクルは縮小還元された人間像に対して断固として反駁しました。高校時代、「人間の一生は身体が酸化するプロセスに過ぎない」と述べた教師に対し、フランクルは「そうだとしたら、人生には意味がないのでしょうか？」と批判的に質問し、教師の考えを受け入れることに抵抗したそうです。

＜第 1 図 人間の縮小還元＞

一般に人間存在は心（心理的）と体（物理的）の 2 次元だけで説明されることが多いのですが、これだけでは領域が狭すぎて、人間存在の現象をすべて説明すること

